

公益財団法人SOMPO環境財団 2021年度事業報告

I 環境財団の4つの事業

1. 人材育成事業～CSOラーニング制度、CSOによる人材育成事業等への助成
2. 啓発普及事業～市民のための環境公開講座、各種シンポジウム・研究会への協賛
3. 環境保全プロジェクト助成
4. 学術研究助成

事業のあらまはは次のとおりです。

1. 環境保全活動に活躍する人材の育成支援

(1) 「CSOラーニング制度」の実施

大学生・大学院生に対する環境CSOでの活動による人材育成、及びCSOに対する支援を目的とした本プログラムは今年度で22年目となりました。昨年度に引き続き、感染拡大が懸念される新型コロナウイルスの影響を受け、残念ながら、今年度もオンライン、テレワークを中心とした変則的な実施となりました。インターン募集時期も含め年初から政府より緊急事態宣言が発令されるなど、感染収束の見通しは立ちませんでした。コロナ下で学生の学習や課外活動の機会が制限されたり、アルバイトも減って生活に困窮する学生の様子も問題となったことから、感染防止に配慮しながら実施継続することとしました。

前年と同様、派遣先をテレワークが可能なCSOに限定せざるを得ませんでした。個別にCSOと業務内容を丁寧に打合せることで派遣先CSOを34団体に増やすことができました（前年29団体）。また、CSOと学生のニーズのミスマッチを防止するため、CSO紹介動画を作成しホームページで提供するなど工夫を凝らした募集を行い、102名の学生の応募を集めることができました。オンライン面接を経て全国4地区で前年を大きく上回る合計61名（前年43名）の学生を選考して、8か月間インターン派遣をスタートすることができました。

地区	応募者数		合格者数		修了者数	
	2021	2020	2021	2020	2021	2020
関東	57	71	31	26	28	26
関西	27	26	17	12	17	12
愛知	7	3	5	3	5	3
宮城	11	4	8	2	8	2
合計	102	104	61	43	58	43

※2020年度は修了基準は設けず

昨年感染拡大防止のため十分できなかった学生同士の交流活動については、9月3日に夏季オンライン合宿を開催しました。単に講義を聞くだけにとどまらず、学生同士で意見交換できる機会を増やしたり、OB・OGや損保ジャパン社員との交流会・懇親会も実施しました。オンライン形式ではありましたが、学生がお互いのインターン活動の情報を共有し、活動の目的、将来の進路などを考える貴重な機会となりました。

毎月一回開催する地区別の定例会については、今年度も集合開催ができず、関東地区とそれ以

外の3地区（関西・愛知・宮城）の2グループに分けたオンライン実施となりましたが、グループでテーマ別の課題に取り組むなど工夫した運営を行いました。学生たちは積極的に情報や意見交換を行い、活動中の悩みを相談しあう等の交流を楽しんでいました。

また、昨年に続き、9月には日本・インドネシアのインターン生を繋いだオンライン会議も実施しました。今年は事前に相手国の現状や課題に関する勉強会を開いたことで、学生たちはそれぞれの国の環境課題を知ったうえで、次世代を担う若者としてどう取り組むべきかなど、英語も交えて意見交換を行いました。参加した学生は「インドネシアの学生もとても高い意識をもって環境保全活動をしていることに驚いた」など良い刺激を受けていました。

インターン活動が終了した2月には、ラーニング生それぞれが、インターンに参加したことで得られた自分の経験・学び・課題などをまとめた「修了レポート」を作成しています。

<派遣先 CSO と派遣学生数>

CSO名	人数
(関東地区)	
1 ECOPLUS	2
2 オイスカ	2
3 オーシャンファミリー	1
4 環境エネルギー政策研究所	2
5 環境文明21	1
6 共存の森ネットワーク	2
7 コンサベーション・インターナショナル・ジャパン	1
8 CDP Worldwide Japan	2
9 自然環境復元協会	2
10 JUON(樹恩)NETWORK	2
11 樹木・環境ネットワーク協会	1
12 新宿環境活動ネット	2
13 高木仁三郎市民科学基金	1
14 WWFジャパン	2
15 日本環境教育フォーラム	3
16 日本環境協会	2
17 パブリックリソース財団	1
18 ボルネオ保全トラスト・ジャパン	1
19 森づくりフォーラム	1
関東地区計	31

CSO名	人数
(関西地区)	
1 愛のまちエコ倶楽部	1
2 大阪自然環境保全協会	1
3 環境市民	2
4 気候ネットワーク	3
5 こども環境活動支援協会	2
6 里山保全活動団体 遊林会	2
7 地球環境市民会議	2
8 日本ウミガメ協議会	2
9 びわこ豊穡の郷	2
関西地区計	17
(愛知地区)	
1 アジア保健研修所	2
2 オイスカ中部研修センター	3
愛知地区計	5
(宮城地区)	
1 オイスカ名取営業所	1
2 環境会議所東北	2
3 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク	3
4 杜の伝言板ゆるる	2
宮城地区計	8
総合計	61

次年度については、新型コロナウイルスの感染収束が見通せないことから、当面は今年度と同様にオンラインを活用し、テレワークをベースとする制度運営を継続せざるを得ないと考えています。その中でも、学生同士のプロジェクトを検討するなど交流機会を増やす工夫を織り込みながら実施して参ります。今年度で制度の卒業生は58名増え、累計で1,225名となりました。現状では対面でのOB・OG会の開催は困難ですが、財団としては今後もオンラインを活用した同窓会、勉強会、セミナー開催などを支援し、将来に向けたOB・OGの「繋がり」の強化を図っていきます。

(インドネシアでのCSOラーニング)

2019年にスタートしたインドネシアでのCSOラーニング制度「NGO Learning Internship Program in Indonesia」は今年3期目を迎え、2021年2月から8か月間、20名の学生がジャカルタ、ボゴール近郊のNGO6団体でインターンを行いました。日本と同様インドネシアにおいても新型コロナウイルスの感染が拡大したため、参加学生は主にオンライン、テレワークをベースにインターン活動に従事しました。今年も合宿研修を行うことは叶いませんでしたが、制度に参加したNGO団体の代表等から環境保護に関する講習を受けるワークキャンプを開催しました。このほか定例会を通じて同期の仲間との交流・連携を深めました。

2021年10月22日、環境財団、環境林業省、NGO関係者が参加して第3期学生の修了式をオンラインで開催しました。財団西脇専務理事より「世界を変えていく若いリーダーとして、環境問題を解決しながらインドネシアの発展に貢献してほしい」と励ましの言葉を送りました。この席で本制度の運営に協力いただいている Sompo Insurance Indonesia (SII)から、修了生を対象とした環境プロジェクトへの助成制度 (Sompo Alumni Idea Fund) の創設が発表されました。これによりインターン期間終了後も参加学生が行う環境保全活動を支援する新たなプログラムが発足することとなりました。

第4期については169名の応募があり、選抜された学生20名が2022年2月3日のキックオフ式典を皮切りに、新たに採用した派遣先4団体を含む10の現地NGOでインターン活動をスタートしています。当面はオンラインとなりますが、定例会等を充実させ学生の指導を行ってまいります。キックオフ式典では来賓の同国環境林業省局長から、「他の多くの環境プロジェクトと比べ本制度は4年目を迎え「持続性」を証明しており、制度の修了生も含めラーニング生等若者たちが国と共に環境ビジョンを打出してほしい」との期待と激励の言葉もいただいています。

インドネシアNGO・参加学生数 (2021年2月～)

	NGO名	人数
1	Benua Lestari Indonesia	4
2	Borneo Orangutan Survival Foundation	4
3	Burung Indonesia (Birdlife International Indonesia)	2
4	DeTara Foundation	3
5	Indonesia Solid Waste Association (InSWA)	3
6	Jaringan Kerja Pemetaan Partisipatif (JKPP)	4
	インドネシア計	20

(2) CSOによる人材育成事業等への助成 (2022年3月1日現在)

(単位:万円)

	団体名	プロジェクト名	実績
1	日本環境教育フォーラム	清里ミーティング2021(オンライン開催)	20
2	東京ボランティア・市民活動センター	市民社会をつくるボランタリーフォーラムTOKYO2022	3
		合計	23

2. 環境保全に関する情報の収集及び提供並びに啓発普及

(1) 「市民のための環境公開講座」の開催

当財団と公益社団法人日本環境教育フォーラム・損害保険ジャパン株式会社の三者共催で開講している本講座は、今年度で29年目を迎えました。昨年に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大の影響によりすべて無料のオンラインセミナーとして実施いたしました。

通年講座のテーマは「パート1：気候変動とエネルギーの転換」、「パート2：企業が取り組むサステナビリティ」、「パート3：わたしたちにできる選択」とし、参加者が環境問題を認識するだけでなく、それぞれの立場で問題の解決に向けた具体的な行動を促すことを意識した実践的な講座提供を心掛けました。

本年度の通年講座の年間ライブ受講者数は、2,697名(前年3,715名)となり、平年水準を大きく上回りました。またオンライン開催としたことで講義録画の提供も可能となり、ライブ受講者を超える3,059人が録画視聴しています。視聴者からは「自宅で視聴できるのでありがたい」、「家事をしながら視聴できた」、「中学生の子供と一緒に視聴できてよかった」などオンライン開催に好意的な意見が多数寄せられました。

「認識から行動へ」を講座テーマに掲げている中、受講後アンケートで「何らかの環境行動をしたい」と回答した割合はすべての講座で70%を超え、全講座平均で89.7%と高水準となりました(前年89.5%)。また今年は、昨年は開催できなかったより実践性を高めた特別講座を8月21日、宮城県気仙沼市と中継をつなぎ開催しました。「震災後10年の気仙沼の海から、人と自然の繋がりを考える」と題した特別講座は、講師と視聴者との双方向コミュニケーションを重視し少人数に限定した講座として開催し、通常講座とは異なる視点を提供することができました。

次年度についても、新型コロナウイルスの感染拡大が収束するまでにはまだ時間がかかると予想されることから、引き続きオンライン形式で開催することを予定しています。環境保全活動を実行できる、より行動力のある若年層をメインターゲットとして知識・理論に偏ることなく、活動者を講師に組み入れるなど実践性のある講座を提供して参ります。

<受講者の状況>

2021年度	パート1	パート2	パート3	特別講座	特別講座		
申込者数	2275名	1712名	1794名	346名	-	申込者数	6,127名
延べ参加者数 (各パート3回実施)	1335名	753名	586名	23名	-	ライブ参加者	2,697名
録画視聴者	1058名	772名	1021名	208名	-	録画視聴数	3,059名

2020年度	パート1	パート2	パート3	特別講座	特別講座		
申込者数	2971名	2743名	2071名	-	-	申込者数	7,785名
延べ参加者数 (各パート3回実施)	1621名	1251名	843名	-	-	ライブ参加者	3,715名
録画視聴者	1186名	1496名	802名	-	-	録画視聴数	3,484名

2019年度	パート1	パート2	パート3	特別講座①	北九州講座		
申込者数	218名	231名	246名	23名	100名	申込者	818名
延べ参加者数 (各パート3回実施)	394名	346名	410名	23名	100名	年間延べ参加者	1,273名

※録画視聴数にはライブ参加との重複を含む

<通年講座の内容>

パート1. 気候変動とエネルギーの転換

* 敬称略

	テーマ	講師
1 2021年9月1日	2050年カーボンニュートラルに向かう世界	高村ゆかり 東京大学未来ビジョン研究センター 教授
2 2021年9月15日	「脱炭素社会」の構築に大いに資する「ISOPシステム」について	光山昌浩 サステイナブルエネルギー開発株式会社 代表取締役社長
3 2021年9月29日	サンゴとサンゴ礁生態系の現状	大久保奈弥 東京経済大学全学共通教育センター 准教授

パート2. 企業が取り組むサステナビリティ

	テーマ	講師
1 2021年10月13日	すべての人のKirei Lifestyleへの貢献をめざして	井上紀子 花王株式会社ESG活動推進部
2 2021年10月27日	野遊びSDGs	後藤健市 株式会社スノーピーク地方創生コンサルティング 代表取締役会長
3 2021年11月10日	カーボンニュートラルな世界を目指す、オールパーズ	蓑輪光浩 オールパーズ日本法人 マーケティング本部長

パート3. わたしたちにできる選択

	テーマ	講師
1 2021年11月23日	地球にやさしい食を探す旅	天野耕二 立命館大学食マネジメント学部 教授
2 2021年12月1日	流域人として暮らす	橋本淳司 水ジャーナリスト、アクアスフィア・水教育研究所 代表
3 2021年12月8日	(対談)食品ロスをなくす方法	井出留美 永田由利子 食品ロス問題ジャーナリスト NPO法人循環生活研究所 理事長

<特別講座の内容>

実施日・場所	テーマ	講師
2021年8月21日 宮城県気仙沼市	震災後10年の気仙沼の海から、人と自然のつながりを考える	NPO法人 森は海の恋人 副理事長 畠山 信

(2) 各種シンポジウム・研究会への協賛 (2022年3月1日現在)

(単位:万円)

	団体名	プロジェクト名	実績
1	棚田学会	2021年度棚田学会シンポジウム	10
2	新宿環境活動ネット	2021年度新宿区『みどりの小道』環境日記コンテスト	11
3	環境文明21	2021年度経営者「環境力」大賞	10
4	地球温暖化防止全国ネット	脱炭素チャレンジカップ2022	30
5	天体と音楽実行委員会	「天体と音楽」をテーマとした科学・音楽コミュニケーション	20
		合計	81

3. 環境保全のための活動に従事する団体及び個人に対する助成

「環境保全プロジェクト助成」

環境保全に取り組むCSOの活動を支援するため、毎年実施しており、今年で19回目となります。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、業務運営に支障をきたすCSOを支援する目的で、助成対象を5件増やして15件としました。助成団体のセミナー等の機会を利用して積極的に募集を行ったところ、54件（前年57件）の多数の応募があり、12月3日開催の認定委員会において厳正な審査を行い、下記15件を選定し、合計296万円を助成しました。

単位：万円

No.	団体名	所在地	プロジェクト名	実績
1	芦田川環境マネジメントセンター	広島県	芦田川きれい☆きれいプロジェクト 「水辺の学び舎」	20
2	NPO法人本州産クマゲラ研究会	岩手県	絶滅に瀕する本州産クマゲラ個体群の 生息・生態調査及びその研究	20
3	認定NPO法人環境市民	京都府	連続セミナー「環境問題と日本社会」の開催	20
4	NPO法人SoELa	神奈川県	地球環境カードゲームマイアースを活用した 小田原・箱根における子供向け環境教育事業	20
5	認定NPO法人 ボルネオ保全トラスト・ジャパン	東京都	高校生が考えた「ボルネオの森・・・ゾウとアブラヤシの戦い」体験ゲーム	20
6	間伐ボランティア札幌ウッドィーズ	北海道	森林の役割を引き出し保全する間伐活動	20
7	グリーン連合	東京都	市民版環境白書 グリーン・ウォッチ2022の発行	20
8	NPO法人はとやま環境フォーラム	埼玉県	第2期「熊井の森SATOYAMA自然学校」 プロジェクト「熊井学」創生に向けて	17
9	つくし野ビオトーププロジェクト	東京都	野菜作りなどを通じた環境やいきもの食べ物に対する17年目の体験的 環境学習（2022ビオトーププロジェクトXVII）	20
10	伊豆海遊びLabo.	徳島県	海川両用水力（潮流）発電装置の開発実証と再エネ教育	20
11	阿南再生可能エネルギー研究会	静岡県	「西伊豆海辺のガイドブック」（仮称）作成及び海辺の自然観察会開催	20
12	白山ろく里山活性化協議会	石川県	アサギマダラの里づくり	19
13	認定NPO法人びわこ豊穰の郷	滋賀県	小さな自然再生 ーみんなで作ろう！ほたるの川ー	20
14	劇団シンデレラ	愛知県	ミュージカルで伝える希少鳥類の保護 ～コアジサシ・ミュージカルの上演～	20
15	NPO法人ラブ・ネイチャーズ	静岡県	奥浜名湖の貴重な自然・生き物を守ろう！	20
助成金				296

4. 環境保全に係わる学術研究に対する助成

「学術研究助成」

本助成制度は、環境をテーマとする意欲に満ちた優秀な若手研究者を支援し、「総合学としての環境学」の確立に寄与することを目指して、2001年からスタートしており、これまで102名の研究者を支援しています。21回目となる今年は、19件の応募の中から（昨年度23件）、7月28日の選考委員会において、新たに5件が助成先として選考されました。

(単位万円)

	申請者	所属大学院名	研究テーマ	実績
1	榑原 敬治	京都大学大学院 総合生存学館 (思修館)	環境問題に取り組む排ガス浄化の量子ファイナンス評価とリスク マネジメントの高度化	30
2	キ ハクレイ	京都大学大学院 教育学研究科 教育・人間科学講座 教育方法学研究室	日本における環境教育の理論と実践	30
3	高田 陽	明治大学大学院 農学研究科 農学専攻 応用植物生態学研究室	養蜂家と協働したニホンミツバチの感染症であるサックブルードウ イルス病の感染対策の確立と養蜂の維持のための市民科学の 手法の研究	30
4	Kim Seula (キム スラ)	上智大学大学院 博士後期課程 地球環境学研究科 地球環境学専攻	Symbiosis between Wetland Conservation and Agriculture – focusing on case studies in Japan and Korea	30
5	平田 礼王	京都大学大学院 総合生存学館 ヤルナゾフ研究室	タイ現地法人における環境経営実施上の課題の解明－親会社の 視点から－	30
助成金合計				150

5. その他の事業

① 「脱炭素チャレンジカップ2022」(旧低炭素杯) への協力

昨年度に引き続き、次世代に向けた脱炭素社会を構築するための、全国各地から選ばれた取り組みを共有し顕彰する「脱炭素チャレンジカップ2022」(主催：地球温暖化防止全国ネット)への協力を行いました。2月15日、事務局長が審査委員として審査会に出席し、「SOMPO環境財団わくわく未来賞」として福岡県大牟田市立明治小学校の「大牟田素敵タウンプロジェクト 美しいふるさとを未来に残そう」の取り組みを表彰しました。

② 2021年度新宿区「みどりの小道」環境日記コンテストへの協力

新宿区が開催する、小学生を対象とした「みどりの小道」環境日記コンテストに協力を行いました。12月12日、財団賞として「SOMPO環境財団わくわくエコの環賞」の表彰式をオンラインで開催しました。5名に対して表彰状を授与し記念座談会も行いました。

③ 財団活動の外部への発信

財団活動の外部発信のため、今年度も「環境財団ニュース」の発行を行いました。3月まで

に第15号（7月）、第16号（10月）、第17号（2月）を発行し、寄付者、行政機関、CSO、学生、関係者等に送付しています。今後も定期的に情報発信ツールとして活用してまいります。

また、2021年度も財団ブログを発信し、CSOラーニングの活動の様子、市民のための環境公開講座の内容等、適宜最新の活動情報を掲示しています。

6. その他の特記事項

（内閣府への届出）

2021年6月25日、2020年度の事業報告等の提出を行ないました。

2021年7月15日、評議員の変更の届け出を行いました。

2021年9月29日、評議員の退任の届け出を行いました。

2022年3月14日、事業計画の届け出を行いました。

II 庶務の概要（2021年4月1日～2022年3月31日）

1. 役員に関する事項

役員等の氏名は次の通りです。（常勤者に「常勤」表示） *2022年3月31日現在（50音順）

役職	氏名	備考
理事長	二宮 雅也	損害保険ジャパン株式会社 取締役会長
専務理事（常勤）	西脇 芳和	公益財団法人SOMPO環境財団専務理事
理事	鮎川 ゆりか	千葉商科大学 名誉教授
理事	岡島 成行	公益社団法人日本環境教育フォーラム 会長
理事	小島 麗逸	大東文化大学 名誉教授
理事	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会 理事長
理事	森寫 昭夫	名古屋大学 名誉教授・弁護士
監事	斎藤 昭一	公認会計士
監事	新里 智弘	公認会計士
評議員	井田 徹治	共同通信社 編集委員・論説委員
評議員	大塚 義治	日本赤十字社社長
評議員	加藤 三郎	環境文明21顧問
評議員	酒井 香世子	損害保険ジャパン株式会社取締役執行役員
評議員	末吉 理花	エシカル協会 代表理事
評議員	杉崎 重光	元ゴールドマン・サックス証券株式会社 副会長
評議員	高村 ゆかり	東京大学未来ビジョン研究センター 教授
評議員	中野 悦子	オイスカ理事長
評議員	丸木 崇秀	損害保険ジャパン株式会社サステナビリティ推進部長
評議員	三橋 規宏	千葉商科大学 名誉教授
評議員	安田 喜憲	都市農山漁村交流活性化機構理事長
評議員	涌井 洋治	公益財団法人アフィニス文化財団理事長
評議員	鷺谷 いづみ	東京大学 名誉教授
認定委員	阿部 治	立教大学 名誉教授
認定委員	市川 博也	国際教養大学 名誉教授
認定委員	西脇 芳和	公益財団法人SOMPO環境財団専務理事
認定委員	原 剛	早稲田大学環境塾 塾長、元早稲田大学大学院 教授
認定委員	福井 光彦	青森大学 特任教授
選考委員	大塚 直	早稲田大学 教授
選考委員	西脇 芳和	公益財団法人SOMPO環境財団専務理事
選考委員	福渡 潔	SOMPOリスクマネジメント株式会社 執行役員アナリティクス本部長
選考委員	諸富 徹	京都大学大学院 教授

2. 職員等に関する事項

2022年3月31日現在の従業員は次の通りです。

区分	氏名	就業年月日	備考
事務局長	佐藤 孝治	2016年4月1日	損害保険ジャパン(株)より出向
課長	瀬川 敬太	2021年4月1日	損害保険ジャパン(株)より出向
主事	齋藤 寛子	2017年4月1日	公益財団法人SOMPO環境財団職員

3. 役員会等に関する事項

①理事会の開催

開催日	会議事項	結果
2021年6月4日 第1回通常理事会	第1号議案：2020年度事業報告および 決算承認の件 第2号議案：定時評議員会開催の件 第3号議案：理事長・専務理事の職務 執行状況の件	全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員了承
2022年3月9日 第2回通常理事会	第1号議案：2021年度事業経過報告の 件 第2号議案：理事長・専務理事の職務 執行状況の件 第3号議案：2022年度事業計画および 収支予算の件 第4号議案：役員等賠償責任保険の加 入の件 第5号議案：事務局長選任の件	全員了承 全員了承 全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員一致で承認可決

②評議員会の開催

開催日	会議事項	結果
(評議員会の決議があったもの とみなされた日) 2021年6月7日定時評議員会 (定款第25条、26条に定めら れた評議員会の決議の省略方 法による)	第1号議案：2020年度事業報告の件 第2号議案：2020年度決算承認の件 第3号議案：2021年度事業計画および 収支予算の件 第4号議案：評議員退任の件 第5号議案 評議員選任の件	全員了承 全員一致で承認可決 全員了承 全員了承 全員一致で承認可決

4. 許可、認可および承認に関する事項

該当はありません。

5. 寄付金等に関する事項

寄付の目的	寄付者	金額
財団の運用財産として	損害保険ジャパン株式会社	50,700,000 円
財団の運用財産として	SOMPO ちきゅう倶楽部社会 貢献ファンド (SOMPO グルー プ)	5,000,000 円
財団の運用財産として	法人	3,570,000 円
財団の運用財産として	個人	1,971,000 円

6. 主務官庁指示に関する事項

該当はありません。

7. その他の重要事項

該当はありません。

2021年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しておりません。